

海外レポート

長沼のヒール、

米国に上陸!

宮井的Conservation Tillage conferenceとWorld Ag Expo俯瞰記



1



2



3



5



4

米・ミネソタ大学主催の 勉強会に参加して

農業経営者編集部員を籠絡したヒール宮井が、このページもジャックし、米国滞在レポートをさせていただく。

1月21日から2月15日までの24日間、カナダ国境のミネソタ州、LA近郊、サンフランシスコを回った。

ミネソタは寒かった。ある朝の気温はマイナス38℃、日中の気温はマイナス20℃で風が吹き、体感気温はもっとシバラタ。

今年はその常夏のLA近郊も含め北米は寒く、一般家庭では軽油(灯油ではない)、もしくはプロパンが暖房用の燃料源で「燃料代の出費が多くなる」と、皆が言っていた。

取引先のジョンディアの販売店に寄った。自分のオーダーしたのは1590ドリルで4・5mのもの。普通は横に刈り取った芝を出す、股の下を通して後方に送る最新式の300Rの乗用芝刈り機を見かけた。ちなみに、この会社は全米に支店を持つが、なぜかすべて同じ市外局番を使い、支店同士は内線扱いでできるそうだ。送られてきたFAXは紙ではなく自分のPC(パソコン)に送るように設定されている。

PCは英語を基準にして作られて



6



7



10

This Is What 154 Bushel Per Acre Soybeans Look Like!

Corn Response to Foliar Fungicide
Influence of genetics

Genetics	Yield adv. bu/acre	No. of hybrids*	No. of trials
All	8.7	121	189
Pioneer®	9.8**	60	106
Non-Pioneer	7.6	61	83
DeKalb®	8.4	27	38
Other*	6.9	34	45

** 8.8 bu/acre not including 3394 genetics

* Includes hybrids from: Agrigold, Asgrow, Burrus, Croplan, Crows, Fielder's Choice, Garst, Golden Harvest, Heine, Hyland, Legend, Midwest Seed Genetics, Mycogen, K, Seed Consultants, Trisler, Vigoro, Wyffels

Picture taken by...

8



11

1 ミネソタのジョンディアの販売店、寒いだけで雪が少ないせいかわか機種のほとんどは外にある 2 無造作におかれたショットガンとハンドガン、一応安全装置は付いていたがこんな環境が良いか悪いか誰が決めるのでしょうか。多分、修正憲法第2条でしょう 3 現地でお世話になった友人の子息、Dabid君 4 世界には飛行可能な零式艦上戦闘機(ゼロ戦)は2機、ここには最終モデルの52型があった 5 ミネソタの田舎にもスノーはある 6 勉強会会場 7 全面積を耕起するのではなく、幅20cmのみを耕起するやり方、米国北緯41度(アイオワ南部、日本では青森北部)においても不耕起栽培よりは耕起栽培の方が収量が高いというデータがあり、米国ではGMですべて不耕起栽培という考えは間違い 8 大豆16俵取り? アンビリバブル! 日本の平均の5倍の収量が取れるそう。ホンマかいな? 9 大豆さび病はまだ北部(雪の降る地域)にないが将来は心配だ 10 飛行場にあったバイオディーゼルの宣伝 11 \$15/6.81kg=¥2300/10kgは高いのか? それにしても正々堂々と100%のヒトメボレ使用とあるのは知的所有権の問題にはならないのか?

今回の滞在の目的は、ミネソタ大学及び農業改良普及所主催で、毎年1月下旬に行なわれる Conservation Tillage conferenceに参加するのだ。早い話、「正しい耕し方による畑の管理方法」ってことですか。

2日間で経済的かつ高収益をもたらす窒素の施肥、リン酸の施肥、カリの施肥や幅20cmしか耕さないやり方、10cmの高さの盛土を形成するやり方、など13の大きな課題について講義を受けたが、どこかの大学と違い、居眠りをしている者はいなかった。

開催前日は機械ディーラー向けの勉強会が開催され、正しく官と民の

いる理由がよくわかる。

日本では60歳で自由にPCを使いこなせる方は少ないが、アメリカでは65歳の営業マンが普通に使いこなしていた。

私が滞在了した町の大学は航空学部があり、そこを卒業した者のほとんどは航空会社か軍の航空隊配属になる。

農学部に至っては台湾から大豆の育種の専門家呼び、アジア向けの大豆の育種を行なっている。この事業を計画立案し、実行に移したのが当時の知事であるが、その息子は現役の農家である。いかに農業と政治、そして現実の社会が結びついているかが理解できる。



12



13



15



16



14



17



18



19



20

連携が行なわれていると感じた。スタックスと言う遺伝子組み換えはRR耐性、耐干ばつ、高収量、BTなどが混合されたコーンが農家に利益をもたらすと言う素晴らしい話であったが、「安全性は？」などどこかの極東アジアの国で騒ぐ暇を持って余す農家はいなかった。インディアン居留地にあるギャンブル公認のホテル1泊と食事込みで150ドルぐらいなのも魅力であった。

日本でもこのように普及所主催の勉強会は存在するのだろうか？毎年同じことをプリントした用紙を配るために給料をいただいている人生は有意義と言えるのだろうか。

農家の交流は民間でできる、政府高官の交流も可能だ。

米国のパイオの現実を日本で普及させるためにも現地の普及所員との交換プログラムを提案したい。条件は30歳までの独身男性で金髪、ブルーアイ。

日本側は英語が心配と言う方もいらっしゃるだろうが、黙っていてもすぐ、くわえ込む異性ができることは歴史が物語っている。

ついでに子供ができれば、その後の交流に花が咲くと言うものだ。

もともと給料は日本側の方が良いのだから米国側も乗る気になるはず。誰かこの話に乗りませんか？米



12 ヤンマーさんもがんばってまっせ 13 どこかのトラクター（インド製？） 14 トラクタープルV8×3台、ラジエターなし 15 ゲイターにスプレーを乗っければ自走スプレーヤーになり車検はいらぬウラワザがある 16 JD9000T。日本にはまだない？ 17 レトロ口機械 18 デカイの一言 19 入場者は世界各地から。なお、サイトは<http://www.worldagexpo.com/> 20 日本でも有名なボブキャットは韓国資本の傘下になりました 21 JDコットンピッカー 22 ケースコットンピッカー 23 LA高野山での豆まき、ミス2世とツーショット!



国大使館紹介しますよ。
子供たちのために
親の姿をきちんと見せる

2月に入り、カリフォルニア州トウレアの屋外ファームショー、World Ag Expoに私の家族と見て回った。このファームショーは主に野菜、園芸、林業、乾燥（アルファルファ等）で一般畑の機械が少ないので、私としては物足りなさを感じてしまうが、世界で一番デカイ野外ファームショーであることに間違いない。

初日の朝9時にアメリカ国歌斉唱が始まる。その後、天気が良ければ北の空から海軍のFA-18の3機が国旗の色である赤、青、白のストロークをなびかして会場で急上昇するところを子供たちに見せるつもりでいたが、当日は霧があり実現しなかった。夏の間は精神的に農業一筋でやりたいので、家族サービスはまったくしないが、雪に覆われる1〜2月は子供の生まれ故郷であるUSAツアーを計画している。

自慢と思われるかもしれないが、農業団体のオヤジが東南アジアに出掛け、失った性春を取り戻す変態行為よりは健康的な姿と考える。またその健全な姿を子供たちに見せることは財産以外の何物でもないはずだ。